

⑯日本国特許庁(JP)

⑪特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭62-47024

⑮Int.Cl.⁴

G 02 F 1/00

識別記号

庁内整理番号

⑯公開 昭和62年(1987)2月28日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全31頁)

⑭発明の名称 至靈法器化身弘法大師龍宮建立

⑯特願 昭60-186212

⑯出願 昭60(1985)8月24日

⑬発明者 兄 内 秀 男 狛江市中和泉5丁目五番地2

⑭出願人 兄 内 秀 男 狛江市中和泉5丁目5番地2

明細書

- 1.発明の名称 至靈法器化身弘法大師龍宮建立
- 2.特許請求の範囲 明細書と図面に表わした所の当発明に係るすべてとし、概念上視角上の観点解釈表現による部分（活動写しん心身転換リクリエーション等）とそれに係る所も含む。但し自然既存のものを除く。生滅法大法輪建立祈念、転世ハイデオに係るが説明が厳禁されて居るのでパリ条約に係り、学問発明が良心の独立と責任に於て理解されて居る責任性文明國への出願は意訳する。活観自在菩薩照見す名命運算占法術に係り一面の構成を観るも、観世音建立推進に係り事由代位代数限りなく汎用超方式を示す。龍姿萬象を比喩世界的心融通構造効果代位し機動節義拍子即す要素。
- 3.発明の詳細な説明 口語の強制は感覚語、下賤な目的牧東主義上に偏より真理學問發明に奉仕しない。深山鳴鳥は山のでも、山に、でもなく呈示の四文字、四姿を素心に念頭に保留するが正しい。技術開示は志ある人への展覧誘導が本義故展示比喩也。団は請求範囲目安で、自然既存部ある

が、その絆縫及び把握採用、可変系伴等につき新技術である。即ち情報論理学上の基本発明は、超高度抽象力次元そのもので全体から汲む様記述し早速本稿に入るが、発明が日本語概念にない為、記述は新語成分を持ち定義か説明上明白にする。
〔当宗旨教義〕「魔物と云へども命あり、大慈悲心に於て生活す、大法輪を示して初転法輪と為す。是俗界外脱也」
宗旨は、信心に因じ、おおむねのほかに、誰の根息を以て河の清濁を表わす如く、目立つものを以て云う。俗界は世人法に重なり、人体を機械物體並みに観ず、特殊な生命体視する所から発して、自己機能に照らし、山川草木宇宙などと云う伝統的な物の見方をするもので、浮説させた（条件つき）世人法での構成説明に於て条件を変更して世人法で觀る時、まれにアース（接地）すると、とか一次的基礎的に、など云う事がある。斯様に陰向に飛躍的寄与する情報論理学上の大発明は、進化した発明と云う台上に乗らねば次の話は見えて来ない高次性面があるので説明嚴禁の範囲請求

は成長性発明を犯し、特許客体にも説明の地位がないから社会文明性を欠くのでこの是正後範囲は当説明後用により拡大する。

廃物の一面は、映入法上俗界に有用でないと云う意味をもつが、心位と世界構成により死活化、存生故失化させる術法は当発明の一主柱と云へる。存生は機能するものを指すが、映入法上の滅失も機能化せることがあり、機能界成長性発明の所以の一端として重要なである。これ等に因る時間空間は下位概念として使われることがある。

原埋も惑転進化し又目的性等に相応分枝し離合するので、元原埋を抽象進化したものが上位とは云ひ切れず、すべて有効だが、先ず簡易廃物利用から述べる。各原埋概念の映画館の略図1の1スクリーン部(膜、背景会とも見習し呼ぶ事あり)は、2図1の電子等の刺旗を以てする発光体(目的により電球とか誘導反射体等も可)を有する破小パイプ多數を2枚のガラス板等1'1"の間に封入したもので、封すべき構成などは後述の問題となるが、この様な仕掛けがあると見られる膜で適當

色々な処理があるが、最簡単なのは5'5一本置きに、又は一段置き等に交互に重ねて6部に末端を解放すると2'3両画面の絵柄が(2'3交互に点滅させるなどして)盤6で見られる。これに凹の如く1'を接看させる。犬猫人など独特の目反射光を利用するが簡易機では肩の上にA'、B反射テープなどをはり赤外線に近い強力電波A'B'を各向に発射して掛けば、A'、B'からの反射波は2図3'4'を貫通し、呼出しを告げる、このともし火代わりに、感応コイル又は物質で反射波エネルギーを直流電圧に変え、半図1の発光体の代わりに液晶シャッターを接看しておいて前記呼出し電圧で液晶を透光状態にすれば、裏の盤6の絵柄が呼出した目に見える。つまり初めの原理では、発光体を光らせて絵柄を作るが、旧式の絵柄をファイバーで引導した為、己に旧型電子銃で2'3に絵が出来上つて了つて居るのでパイプ内をシャッターとして必要な絵を整理したわけで、他の方法は1'の機能を複数変型して1'1(L)で初めの原理に則して旧テレビ電子銃にアダプターをつけ、走査途上呼出しの未て居ないパイプから

に発光が生ずる様な感じになれば、絵柄も作れる。このパイプによる表現は、原理の或る区間に於ける骨子を説明するものだが、実用にも使えるので、その数個の構成分布の拡大分解図2を示す。凹は乱雑に並ぶパイプ(筒とも呼ぶ)で、発光筒と附属筒に分けて書いたが、1本でも併むもので目からの光などが3'4'を貫通して時ともし火4'がつく様にするなどしてこの点火を呼出しと名づけ呼出しの時に光輻射エネルギーが1'Vあれば目の方向2から光が見える。筒5は目的により光束をしづら部分構成である。この光が或る世界に因して連合すれば絵柄様にもなるので収取えずガラス槽(I図1'1"で構成)に多数投入、空気や電気力等で高速乱流動させる。呼出しはこの場の一応の原理で簡易機や高級機などで構成系も変わつて行くので、廃物利用の場合を先ず示す。前記パイプ式スクリーンをD型と呼び3図1に示す。2'3'は廃物間近かの出願日現在の古物テレビでこの画面から光点を取る為4'の光接看装置を経てガラスファイバ束5'5'で末端処理盤6'迄導びく。

引導されたファイバーには光を供給しない様、旧画面の光点を光らせない、即ちアダプターで電子線を消すか曲げ等すればよい。この場合Aを左肩にはつておき、簡単には画面~~2と4位相~~^{1と4位相}のセンサー1'を設置しておく事により、アダプターがどの光点を消せばよいか分る。1'は1と同じ様なパイプを封じて置いて専ら呼出し位置や方向の採取に使用、アダプターに電子線を消すべき時又は位置を報知するわけだが呼出しがA波だから左目に画面2の絵柄が見えるければ^{Y右目上にB波反射テ-7°を}筒が右目を向いた^{時のみ右目用3'の光吳が光る。}次に当超システムの一表現として、中間処理の見地に述べる調導子を説明する④。例えば^Yファイバーガラス中間に於て光流を調整するシステムで、光などに代表される振動エネルギー成分に係る物理現象を扱ふが、後には他の諸効果も機能させる。この場合はファイバー中にコブを作るなどして加工し易くした場所を切削加工などして例えれば分光プリズム効果を持たせるなどし、単に増減の場合は、入力軸の延長方向に光を逃す様反射鏡ガラスを削り取り、液晶などのセルを張りつけて置て電圧を





